



〒975-0031
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
TEL:(0244)26-1315
FAX(0244)26-1318
E-mail:sousou.kyoubu@pref.fukushima.lg.jp

○ 飯館村公民館訪問・社会教育研修会



飯館村公民館訪問・社会教育研修会の概要

日時 令和6年11月29日(金) 9:00~11:30
場所 飯館村交流センター ふれ愛館(研修室小・ホール)
参加者 公民館訪問: 飯館村…2名 相双教育事務所…3名 計5名
社会教育研修会: 社会教育委員(新地町、相馬市、南相馬市)…30名

I 公民館訪問(9:00~10:05)

飯館村公民館の課題意識

一部地域を除く避難指示の解除から7年目を迎えたが、帰還率は28%と村民の多くは村外での生活基盤が固定されつつある。

そのような中、生涯学習課では各種講座・事業等を住民のニーズに見合った形での事業を検討し実施してきているが、新たなコミュニティ形成や自主的な社会教育活動に結び付く、思うような効果が得られていない現状である。

さらなる住民ニーズに合致した事業展開、村内居住者等がふるさとでいきいきと暮らすための生涯学習・社会教育事業の「公民館」の在り方を今一度検討していきたい。



飯館村公民館の事業実績及び計画

- ◎ 様々な課題があると飯館村公民館の皆さんはおっしゃっていましたが、住民の学びや体験、つながりづくりのために工夫された事業を企画し、公民館運営を行っていました。一部ですが紹介いたします。
- 生涯学習事業

生涯学習支援事業では、一人1趣味活動の推進を目標としていました。趣味を持つことは人生を豊かにするだけでなく、健康に生活するために大いに役立ちます。どの自治体でも参考にしていきたい事業です。また、公民館講座やスポーツに参加したり、本を借りたりするとポイントを付与し、参加を促進しています。公民館に来ていただくための工夫です。また、村内1日留学事業という被災地ならではの事業も特筆すべき内容です。また、移住・定住の促進のため、ツアーを行っています。
- 青少年事業

中学生の海外ホームステイや、婚活事業にも携わっています。村の未来のために公民館の皆さんが努力している姿に明るい未来を感じました。
- 読書活動事業

公民館内図書室には5,000冊の蔵書があり、図書ボランティアさんの協力を得ながら運営しています。読み聞かせや、読書メッセージコンテスト等を行い、住民の皆さんの読書活動を支援しています。
- 文化芸術事業

「いいいたて村文化祭」「芸能発表会」を開催し、住民の皆さんの学びの作品発表や展示、サークルや趣味活動を行っている皆さんの成果発表の支援を行っています。人と人とのつながりが創出されています。
- 生涯スポーツ事業

村の特性を生かして真夏のナイター駅伝大会を行っています。高地に立地しているため、夏でも夜は涼しい飯館ならではの事業です。



協議（意見交換）⇒「公民館の『つなぐ/むすぶ』の可能性について」 公民館の創設と普及

公民館を簡単に表現すると、住民同士がつどい、学び、結びつく場所であり、令和の今になっても人づくり、地域づくりに貢献しています。法的にも日本の教育法体系にきちんと位置付けられています。

講座やセミナーの参加自体が地域に貢献し、還元している

社会教育を通して、孤独や孤立による弊害を是正できる可能性を持っています。公民館で行っている趣味・教養も大切な課題解決方法であり、人のつながりを作り出し、住民の連帯感を形成する公共性のある事業と言えます。

趣味・教養は役に立っている、公共性が高い

住民の一部の人しか参加しないという悩みもあるかもしれませんが、エッジの効いた人、つまり地域のことを心から良くしていきたいというリーダーがいれば地域は変わるのだそうです。自主的に公民館で学んだ人の中から、公民館の本来の姿を具現化してくれる人が現れるはずですよ。

ここで、もう一歩！

講座を担当して下さる講師の方に、講座に参加している住民の皆さんが、獲得した能力を地域の諸問題につなげながら活用できることを見込めるように講座を進めてもらいます。公民館職員が目的をはっきりさせ、事前に打ち合わせをすることによって、達成可能になります。趣味だけではなく、地域の課題に対して何か役立つのではないかと地域づくりに関われるのではないかと考えるだけでも公民館本来の目的に近づかずには済まず。

ピンチや困りごとはチャンス

身近なところの困りごとやピンチは相双地区にはたくさんあるはずですよ。復興の過程で住民一人一人の悩みを落とし込みながら講座を共に企画できれば理想ですよ。

公民館が学びを通して「むすぶ/つなぐ」

目の前には、一度地域がバラバラになってしまった相双地区の住民がおります。地域の未来をひらいていく先頭には公民館や社会教育施設が無くてはなりません。そのためには、社会教育関係職員が住民一人一人を様々な人や物事とつながれるようにしてあげる必要があります。学校と違って、だまっていた住民の方々はなかなか公民館には来てくれません。個人の学びたいという気持ちを後押しするのが社会教育ですが、きっかけが無ければ学びたいという思いをもてないこともあります。少しずつ社会教育の仲間を増やしていきたいものです。

新たな課題が見えました

意見交換を通して、被災地ならではの新しい課題が見えてきました。双葉地域でも何度か話題に上がっていたのですが、移住者の方々と社会教育です。今後ますます増えてくると考えられる移住者の方々のことも真剣に考えなければならぬと気付かせていただきました。今後、関係市町村の皆様と協力しながら、課題の大きな柱として取り組んでいきたいと思っております。

Ⅱ 社会教育研修会（10：30～11：30）

【講演】人生は片道切符 講師：前飯館村村長 菅野 典雄 様

今回の社会教育研修会は相馬地方社会教育研修会として合同開催となりました。飯館村の社会教育関係者とともに、新地町、相馬市、南相馬市の社会教育委員さんも参加して前飯館村村長でもあり、飯館村公民館長も長く務められた菅野典雄様の講演を聴きました。

【講演の概要】

- 1 公民館勤務でわかったこと
- 2 人生の分かれ道とは
- 3 人生は片道切符なのだ
- 4 バランス感覚、柔軟性、気づきの心、創造性
- 5 原発事故から何を学ぶ
- 6 お互い様、利他の心、までいライフ

菅野様からは社会教育の大先輩として、その豊富な経験をもとにしたお話を聞かせていただきました。参加した社会教育委員の皆様もそれぞれの立場に置き換えながら聴き入っていました。

社会教育研修会

